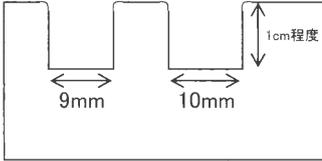


事項	えだまめ「あおり福丸」の6月中旬直播普通栽培における収穫適期は莢の厚さが9～10mmの時である		
ねらい	「あおり福丸」は極良食味のえだまめであり、地域特産野菜として注目を集めている。同品種で最も多収となる作型である6月中旬直播普通栽培における収穫適期について検討したところ、知見が得られたので参考に供する。		
指導内容	<p>1 良食味のための収穫適期</p> <p>(1) 食味評価の高い収穫時期は莢の厚さが9～10mm程度のときで、開花期からの積算気温が約900℃に達する時期である。</p> <p>(2) 莢の厚さが12mm以上になると明らかに食味は悪くなる。</p> <p>(3) 年次・圃場によって株あたりの着莢数に変動するが、着莢数が多くなると、莢の厚さが小さくなる。従って、着莢数が多めの場合は、収穫の目安となる莢の厚さを9mm前後に引き下げる。</p> <p>2 収穫時期の判定法</p> <p>莢の厚さの平均値は、主莖節数を1として下部から0.3～0.5の位置にあたる主莖節に着莢する莢の厚さとほぼ一致する。よって、収穫時期の判定にはこの部位に着生する正常2粒莢の厚さを調べる。また、莢の厚さは、ノギスまたは下図のような自作スケール等で測定する。</p> <p>(例：主莖節が12節ある場合の判定位置は、 子葉節を1番目として、$12 \times 0.3 \sim 0.5 \div 4 \sim 6$番目の主莖節であり、 この位置の正常2粒莢の厚さが9～10mm程度に達したら収穫する)</p> <p><自作スケールについて></p> <div style="display: flex; align-items: center;">  <div style="margin-left: 20px;"> <p>① プラ板や厚紙等を用意し、左図のような形状になるように工作する。スケールの深さは1cm程度とする。</p> <p>② 測定時に莢を傷つけないようにするため、莢と接触する部分はヤスリ等で滑らかにしておく。</p> </div> </div> <p>3 莢の厚さと外観品質との関係</p> <p>莢の厚さは経時的に増加し、開花期からの積算気温が約1,000℃に達する時期にその増加が頭打ちとなる。これ以後、莢の黄化が急速に進み、外観品質が低下する。特に、株あたりの着莢数が多くなると、莢の黄化の始まる時期が早くなる傾向がある。</p>		
期待される効果	えだまめ「あおり福丸」の良質生産に寄与する。		
利用上の注意事項	<p>1 他の品種・作型・栽植本数における収穫判定に適用しない。</p> <p>2 本資料では、主莖節数を数える際、第1本葉節と第2本葉節の節位が同じ場合には一節として取り扱った。</p>		
担当部署 (担当者名)	青森県農林総合研究センター畑作園芸試験場試験場 作物改良部 (前嶋 敦夫)	対象地域	県下全域
発表文献等	平成17～18年度 青森県農林総合研究センター畑作園芸試験場試験成績概要集		

【根拠となった主要な試験結果】

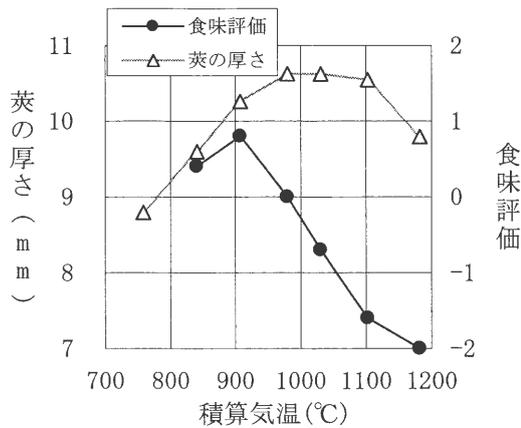


図1 莢の厚さと食味評価の経時的推移

(平成18年 青森農林総研畑園試)

(注) パネラーは5人。収穫後に3分茹でた後、-18℃で貯蔵し、11月28日調査。評点は9月19日のサンプルを0として、2：優る、1：やや優る、0：同等、-1：やや劣る、-2：劣るで評価。

表1 日別・莢の厚さと食味評価

(平成18年 青森農林総研畑園試)

	収穫日			
	9月11日	9月15日	9月19日	9月22日
8mm以上9mm未満	0.0			
9mm以上10mm未満	0.5	0.2	0.5	
10mm以上11mm未満	(0.0)	(0.0)	0.0	0.0
11mm以上12mm未満	0.0	-0.5	(0.0)	(0.0)
12mm以上		-1.0	-0.8	-0.5

(注)1 各収穫日ごとに比較。パネラーは6人。収穫後に3分茹でた後、-18℃で貯蔵し、11月29日調査。
2 評点の基準は最も莢数の多い莢の厚さとし、(0.0)で示した。評価は、2：優る、1：やや優る、0：同等、-1：やや劣る、-2：劣るで評価。

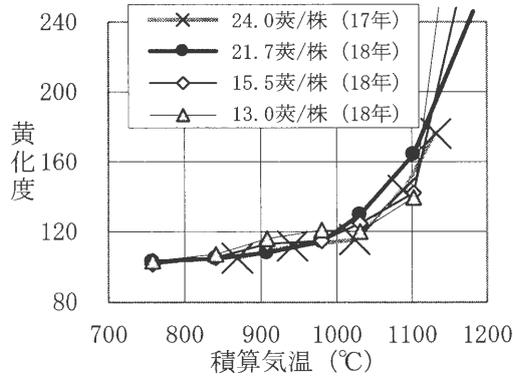
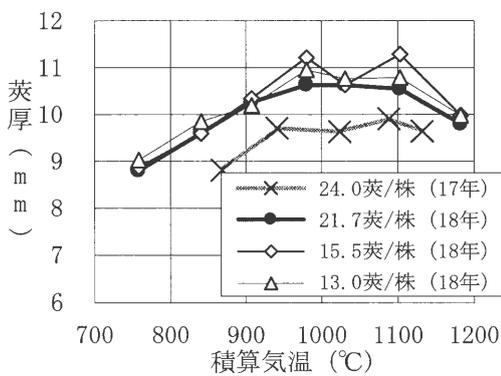
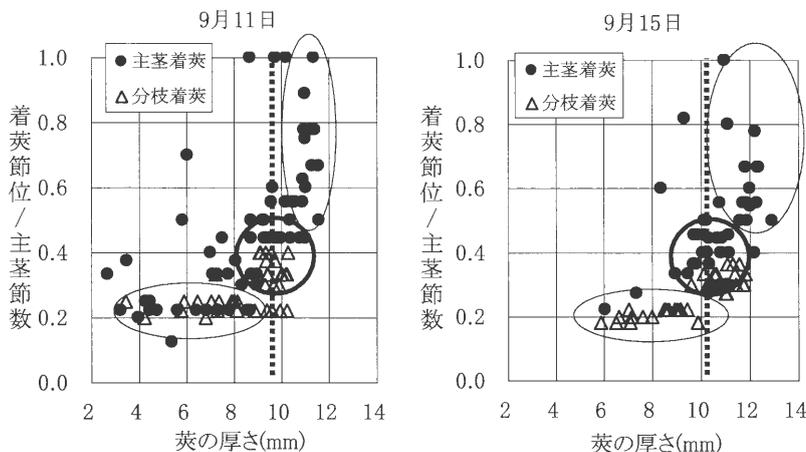


図2 株あたり着莢数の違いが莢の厚さ及び黄化度に及ぼす影響 (平成17～18年 青森農林総研畑園試)

(注)1 黄化度は、色彩色差計(ミノルタCR-200)を用いて、L*値、a*値、b*値を測定し、 $L^*値 \times b^*値 / |a^*値|$ で算出。

- 2 耕種概要 播種日 平成17年：6月13日、平成18年：6月15日
 栽植様式：うね幅70cm、株間10cm、1株1本立て(普通栽培)
 施肥量(kg/a)：窒素0.5、りん酸1.5、加里1.0
- 3 開花期 平成17、18年とも8月4日



- (注)1 右図内の波線は調査日における正常2粒莢の平均莢厚。
 2 分枝に着莢した莢はその分枝が発生している主茎節位で示した。
 3 調査株の平均主茎節数は9.5、株あたり平均総着莢数は21.7、株あたり平均粒数は37.7。
 4 耕種概要 図2参照

図3 着莢節位と主茎着莢の厚さとの関係 (平成18年 青森農林総研畑園試)